



片岡 愛之助



中村 壱太郎

舞踊詩

二、筑前琵琶

一、長唄舞踊
勧進

進帳

若柳 吉金吾 振付

散る花草紙

奥州下り

水口 まり夫 作曲
上原 まり夫 作詞

黄金の夢

三、創作舞踊劇

清きよひら衡

高橋 克彦 原作「炎立つ」より
水口 一夫 作・演出
前田 苦 藤間 勘十郎
剛舟 郎 美作振付

■主催
若柳流宗家
黄金の夢 実行委員会

前田 苦 藤間 勘十郎
剛舟 郎 美作振付



若柳 吉蔵



若柳 吉金吾



上原 まり



花柳 基



尾上 菊之丞

盛岡市民文化ホール(盛岡駅西口マリオス)

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通2丁目9-1

平成24年 11月 23日(金・祝)

開場:午後1時30分 / 開演:午後2時

■お問い合わせ 若柳流宗家 TEL:075-611-1234

ご観劇料(税込み)

S席 10,000円

A席 7,000円

B席 5,000円

三階席 2,000円

発売

開始 9月3日(月)

10時~

チケット取扱い

マリオスインフォメーション(TEL:019-621-5155)、岩手県民会館プレイガイド(TEL:019-624-1171)、フェザンプレイガイド(TEL:019-654-7251)、川徳プレイガイド(TEL:019-651-1111)、北上さくらホール(TEL:0197-61-3500)、チケットぴあ(TEL:0570-02-9999 [Pコード]:423-276)

□共催: 岩手県芸術文化協会、岩手県文化振興事業団、岩手県ユネスコ協会連盟、岩手日報社、IBC岩手放送
□後援: 岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、平泉町、平泉町教育委員会、岩手県商工会議所連合会、岩手経済同友会、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、盛岡タイムズ社、岩手銀行、東北銀行、北日本銀行、盛岡信用金庫、川徳、ジョイス

□協賛: 月桂冠株式会社 □協力: 松竹株式会社 □製作協力: アローブロモーション

■ 平成二十四年十一月二十三日（金・祝）

開場 午後一時三十分

開演 午後二時

出演・主な配役

勧進帳

舞踊詩

黄金の薙刀

題

■ 盛岡市民文化ホール（盛岡駅西口マリオス）

◆ 勧進帳

若柳吉蔵

今藤政太郎
今藤美治郎
今藤政十郎
柳屋栄八郎

三味線
笛
藤舎名生
藤舎呂英
藤舎成光
望月洸太郎
望月太津之

小鼓
上調子

中村壱太郎

柳屋栄八郎

尾上菊之丞

柳屋栄八郎

一、長唄舞踊 勸進帳

若柳 吉金吾 振付

富樫左衛門

柳屋栄八郎

源義経

柳屋栄八郎

坂東はつ花

柳屋栄八郎

◆ 散る花草紙

柳屋栄八郎

上原まり

柳屋栄八郎

二、筑前琵琶 散る花草紙

奥州下り

水口一夫 作詞

篠原清衡

柳屋栄八郎

中村壱太郎

柳屋栄八郎

尾上菊之丞

柳屋栄八郎

若柳吉金吾

柳屋栄八郎

花柳輔

柳屋栄八郎

花柳源九郎

柳屋栄八郎

花柳吉史加

柳屋栄八郎

花柳静久郎

柳屋栄八郎

花柳喜衛文華

柳屋栄八郎

花柳寿々彦

柳屋栄八郎

坂東はつ花

柳屋栄八郎

藤間直三

柳屋栄八郎

藤間豊彦

柳屋栄八郎

五條絢巳

柳屋栄八郎

藤間静寿

柳屋栄八郎

結有母沙羅

柳屋栄八郎

清原武貞

柳屋栄八郎

清原真衡

柳屋栄八郎

源義家

柳屋栄八郎

若柳吉金吾

柳屋栄八郎

花柳基

柳屋栄八郎

尾上菊之丞

柳屋栄八郎

若柳吉蔵

柳屋栄八郎

藤間芳彦

柳屋栄八郎

藤間直三

柳屋栄八郎

藤間豊彦

柳屋栄八郎

五條絢巳

柳屋栄八郎

寿

柳屋栄八郎

三、創作舞踊劇

清きよひら衡

高橋克彦 原作「炎立つ」より

前田勘十郎 藤間勘十郎 振付

美術 前田勘十郎 藤間勘十郎 振付

奥州藤原氏を頼つて落ち延びんと、山伏姿に身をやつし、弁慶をはじめわずかの手勢で北陸路を北へ向かい、安宅の関では関守富権に見咎められるも、弁慶の咄嗟の機軸で危機を逃れ、義経主従は奥州平泉をめざした。

野にふし山にふし、一行は出羽の国信夫の里に辿りつく。そこは壇ノ浦の合戦で討ち死にした佐藤継信の故郷であつた。義経は継信の母尼公に逢い、継信の戦での働きを物語り、戦死の説ひを伝える。そして義経一行は、歩みを速め平泉に到着する。

義経主従は、兄頼朝にうとまれ、奥州藤原秀衡を頼つて落ち延びたが、秀衡の死後、息子泰衡の兵に囲まれ、今やこれまでと覚悟を決める。

その義経の前に忽然とあらわれたのは、藤原清衡の靈であつた。清衡は父経清、叔父貞任が、源頼義、義家親子、清原武則と戦つて討死した前九年の役の様子を語り、さらに、その後母結有との苦労の末、清原を滅ぼし、奥州を統一、父経清の望みであった奥州の平安と黄金樂土を築きあげたことを物語る。

義経は清衡の教えにより、戦うことの愚かさを悟り、奥州の地を、民を戦火に巻き込まないため、落ち延びる決意をする。弁慶一人が追手を一身に引き受ける。